認知症の祖母と共に過ごした日々を振り返る「介護記」

【写真は、祖父と祖母(1990年代)】

塩田吉之(しおたよしゆき)　クローバー・サービス職員

カバン作りと、消えた針

針仕事(縫い物)をはじめてから、祖母の一日の過ごし方が変わり始めた。何を縫っているのかと見ていたら、最初はカバン作りだった。持ち手も生地を筒にして裏返して作り、裏地もつけてちゃんとしたカバンに仕上がっていた。『まだこんなことできるんや!』と驚き、『おばあさんすごいやん!』と僕は褒めた。それからというもの、いろんな生地を出してきては、カバン作りに熱中。祖母は一日の大半をそれに費やすことになった。

唯一の難点は、使っている針をどこかに失くしてしまうことだった。「よっさん(祖母は僕をこう呼ぶ)、針がどっか行った」というので、一緒に探すも見つからず、離れ2階にある祖母の元内職部屋から数本拝借してきて『もう失くさんときや!』と手渡すのだが、また失くす。その繰り返しで、たくさんあった針はいつの間にか数本になってしまった。いったいどうしてなくなるんやろう?様子を観察していると、ハサミに持ち替える時に、針をコタツの布団に差していた。行方知らずだった針のほとんどはコタツ布団の中から見つかったのだった。

止まらない下ネタ、そして事件が発生

針仕事をしている時は、集中していて変わった行動も少なかったが、性的発言は相変わらず続いていた。脳トレ用(漢字の書き取りや、計算用)に買っていたノートは、いつの間にか日記帳に変わっていて、その日にあったことなども書かれてはいたが、卑猥(ひわい)な絵も各所に描かれていた。おまけに「稔(父)のち○ち○くさーい。」などという書き込みも… これには少し笑ってしまった。

そんなある日、驚くべき行動を目にしてしまった。父がコタツに入って横になり、テレビを見ていると、祖母がその日は紙パンツもはかず、全裸で風呂から上がってきた。恥じることなく、むしろその裸を父に見せつけるかのように、父のまわりを走り回っていたのである。半身不随で言語障害もある父は身動きがとれず「あかんあかん!」と言いながら目をそらすことしかできず、それを見てますます調子に乗る祖母。父の声を聞き、何事かと駆け付け、『あほなことやめんか!』と制止し、祖母に紙パンツをはかせた。父も相当動揺していた。当然である。80を過ぎたおばあさん(父にとっては姑)の、そんな姿は誰だって見たくない。

これは忘れられない、出来事の一つだ。そしてその時の祖母の【にやにや】した表情も今でも目に浮かぶ。何かに取り憑かれたような、異様さがあったからだ。

恋する昔乙女(おとめ)

祖母の日記には、デイサービスでの出来事も書かれていた。「今日は男性○人、女性○人だった」というのがほとんどだったが、時折、人の名前も書かれていた。仲の良い人なんやろうなぁ~ぐらいにしか思っていなかったが、ある日、デイサービスから困りごとの相談を受けた。

祖母が、デイサービスの同じ利用者の男性に恋心を抱いたようで、その人につきまとい、それが目に余るとのことだった。ノートの切れ端に書いたラブレターも見せられた。家の日記をよく読むと、その人の名前が数多く書かれていて、確かにノートを破った跡もあり、もしかして急に性的な言動が増えたのは【これか!?】とピンときた。実際のことはわからないが、80歳を過ぎたおばあさんが恋をするなんて、世間的に恥ずかしいと思った僕は『(あの世で)おじいさんも怒っとるで!』と言い、叱るのだが「死んだもんは知らん」と聞く耳を持たない。

何かあるたびにその人の名前を口にするし、日記を一所懸命書いていると思ったら、その人宛てのラブレター。取り上げると怒り、そのうち隠すようにもなった。隠す場所はコタツの天板の下とわかっていたので、祖母が寝ている間に取り出しては他の場所に移していたのだが、時にはそれをかいくぐり、デイサービスのカバンから見つかることもあった。いったい祖母を夢中にさせるその人はどんな人なのか?気になった僕は、またデイサービスの見学に行くことにした。

その目は釘付け。一体何歳やねん。

デイのフロアで椅子に座る祖母は、顔を出した僕には目も向けず、遠く離れた場所に座るその人の方をずっと見ていた。そばにいると行動が大胆になるからと、遠くに座らされているにもかかわらず、机に突っ伏したまま、その人を見つめていた。『いつもこんな感じですか?』とデイ職員に聞くと、苦笑い。その人がトイレに誘導されると、祖母も一緒に立ち上がり、追いかけようとして制止されていた。漫画でよく見る【目がハートマーク】そのままの状態だった。

家に帰り、真面目な顔で『あんな人のどこがええんや!?』と問いただすも「すらっとしていい人や」と言い「もしお前に弟ができたらどうする?」などという始末。その人との間に子供ができたら、という意味らしい。(そこは弟やなく、おじさんやろ)と心の中で突っ込みつつ、祖母の恋心、忘れさせるにはどうしたらいいか?新たな悩みの種が増えて、お手上げ状態となった。

【介護者家族交流会】で相談

困った行動が相次ぎ、これまで足踏みしていた【介護者家族交流会】に初参加することにした。【認知症の人と家族の会】世話人の方に祖母の恋心についてどうしたらいいか、悩みを打ち明けたところ、開口一番「恋をするっていいことじゃないですか~」と言われ、唖然とした。こっちが思っていた答えではなかったのもあるが、その後の話は全く耳に入らないまま、会をあとにした。

世話人さんの言葉の意味に、当時は気づけなかったが、今の僕にならわかる。「誰かを想う気持ちが、祖母の毎日に張り合いをくれている」ということなのだと。